

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400915		
法人名	株式会社 ほくおうサービス		
事業所名	グループホーム ほくおう 3F あかしあ		
所在地	札幌市西区西野8条4丁目10番12号		
自己評価作成日	平成 27年10月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400915-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が混乱しないで普通の生活ができることを何よりも優先します。利用者が「心身の痛みを緩和し」「心を癒し」「生活に満足できる」ように導いています。車椅子の使用や移動が楽にできるように、廊下や階段・エレベーターは広めのつくりで、各階、明るく、ゆったりと生活できるつくりになっています。特に廊下は広く、運動・リハビリ・イベントなどいろいろな活動に利用しております。また、四季を通じて、季節のしつらえを行っており、生活の中で季節を感じていただけるように環境整備をしています。地域との交流にも力を入れており、清掃活動や輪投げ大会など町内会行事への参加を初め、小学校・児童会館との交流を積極的に行っており、例えば小学生には車椅子の体験学習の機会を提供させていただいています。今ある能力を最大限に発揮してその方らしい生活が日々送れるように、また、難しいことに関しては支援をさせていただきながら、利用者様が満足ができる生活ができるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、スタッフ全員がその理念を共有して実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や近隣小学校行事などには、地域の方々と一緒に参加させていただき、交流を深めています。また、毎年、町内会の方々や入居者と一緒に琴似発寒川のゴミ拾い等の活動を行い、利用者さんと地域に密着した貢献活動を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回地域推進会議において現在のフロー状況や取り組みを報告している。また、町内会の方から福祉用具の使い方や相談を受け適切な品物をお勧めしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者状況や事故報告書また、事業所での取り組み等を報告し、地域からの助言や意見を頂き、サービスの向上につなげております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者や包括支援センターの方と入居者情報や個別のケースの相談など協力関係を築いております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やユニット会議において身体拘束をしないケアへの理解を深めている。日常業務において、言葉使いや態度などは、管理者からの指導によりその実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やユニット会議において法律についての理解を深めている。合わせて日常業務の中でも管理者が中心になって虐待に繋がりがかねないケアについては未然に指導しその防止の徹底を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については社内研修等で学ぶ機会を設けています。その知識の活用についてはさらに一層理解に努めながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・説明文書を提示し、ご家族へのご理解を確認しつつ、十分な説明時間設けております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に御家族様に参加していただき、直接ご意見等を伺ったり、アンケートにより推進会議の議題を収集しながら運営に反映できるように努めております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は、日頃から情報共有を行い連携を図りながら、問題点や意見を吸い上げ、上司に提案し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、定期的に社内試験を行ない介護の知識の確認を行っている。その他、職員のアセスメントを行ない職員の評価を実施し、個々の長所を引き伸ばした、短所については、フォローアップ研修を行いスキルアップしております。また、専務による職員の個人面談を行い、スタッフの仕事に対する思いなどをヒアリングして、今後に繋げております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では年間研修を計画し、月1回の社内研修を行っている。また、その他にユニット単位で個別の課題に対してフォローアップ研修を実施して、職員の介護力や知識を高めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区主催の勉強会に参加し、交流を深め情報を広く持つことでサービスの質の向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を交えて本人と面談を行ない詳細な要望の聞き取りを行なっている。それに基づき支援を行ない安心できるような信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内の生活状況やホームの生活感を見学して頂き、不安や質問等には誠意を持ってお答えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用開始時、サービス内容をご家族本人担当者を含め、必要な支援を検討し、適切な対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中で、共に喜怒哀楽を感じ信頼関係を継続させていく姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の喜ばれたことや表情をお伝えしたり、どんな事に困ってどんな援助をしどのようになったかをご家族にお伝えしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好まれる場所や馴染みの方々との関係が継続できるよう、外出・面会等を十分に配慮・支援しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感が生じないよう、日常生活やレクリエーションの工夫、職員の仲介を重要視し、円滑な交流が図れるよう援助しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣地域でお会いした際には、気軽のお声をかけ合いコミュニケーションを大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用したアセスメントを行い、ご本人の思いや希望、意思の把握、主にユニット会議で職員同士の情報の共有に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴等についてご本人やご家族に伺い、ケアに結び付けております。また、入居後もご本人の言動などをもとにご家族と情報交流を行いよりよいサービスに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の一日の生活状況を詳細に記録し、全スタッフ間で日々確認・振り返りをおこない、現状や問題点を把握しております。また1ヶ月に1度は全スタッフで総合的検討を行っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し、サービス担当者会議を経て入居者様の課題、ニーズにあったプランを作成しております。定期的なモニタリングや稔日の個人記録で変化があれば随時見直しを行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を日々記載し、情報を共有しながら介護計画の見直しにいかしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フロア内での生活に限定せず、他ホーム、地域での活動に参加いただくなどしております。また畑作りを行い苗うえから収穫まで、自然との関わりも大切にしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方、近隣小学生の交流会を定期的に行い協力をいただいております。また、消防との連携による避難訓練を実施し協働いただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や看護師の訪問で日常の医療管理を強化しております。また、特変時は速やかに受診対応し、経過や結果は逐次ご家族に報告しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師の訪問を受け、身体状況の報告相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時および入院中は病院と連携を図り、経過状況を確認し情報交換に努めております。退院後も支障がないよう医療機関との連携に配慮しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を基に説明を行なっている。当フロアでは重度化や終末期の状況になっている入居者様はならず初期の説明に留まっている。当社の他のホームでは、実際に終末期ケアを行っており、そのような状況になれば積極的に取り組んでいく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より救命講習を受け、応急手当、初期対応の訓練を受けております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練(日中、夜間を想定)及び年1回の地震災害による訓練を地域の方にもご参加していただき行っております。今年度は、地震災害想定し、かまどを作り炊き出しでご飯とカレーを作る事を行い、防災に対する意識を高めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護の社内研修に参加しています。普段関わり合いの中での言葉使いなど気をつける様努めて、個人記録も適切に管理しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各個人を尊重し、その方にそれぞれに合った働きかけを心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、個々の趣味・ご意思を尊重し、散歩やレクリエーション等にご支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容につきましては月に1回、訪問美容にてホームで行い、カット、パーマの好みはご本人の希望を尊重しております。また、行事参加や外出の際も季節に合わせたご本人ご希望のおしゃれをしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が出来る可能な限りの家事は、スタッフ支援のもと参加いただいております。食事も皆で食卓を囲み会話を楽しみながら召し上がっていただく雰囲気作りに努めております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量や食事量を記載・確認し、一日の栄養摂取・水分摂取のバランスと考え支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に専門家の口腔ケアを受け、指導も頂きながら毎日、その方にあつたケアを支援しております。また、社内研修の一環で口腔ケアを取り入れスタッフ一同、向上に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人それぞれの排泄習慣・身体状況に応じた排泄促し、無理のないよう努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事管理や体操、散歩しながら適度な運動を行い、便秘予防を心がけております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入居者のその日の体調に合わせ、入浴して頂いておりその時の入居者の気分によっては時間を問わず入浴して頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のその日の状況に合わせ、気楽にソファーなどで休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師や専門家による講習会などに参加し知識向上に努めております。またご入居者様の体調変化により医療機関連携のもと服用を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴等から本人好みを把握し家事作業た趣味活動を提供することで楽しく活気ある生活が送れるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画に外出行事も企画する事で気分転換や充実感を得られるように取り組んでいる。又、ご家族のご自宅にご家族と一緒に徒歩でいき宿泊されてホームに戻られる方もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の尊重をを活かし、金銭管理が出来る方は、ご自分で管理し、買い物が出る支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のご希望があれば電話、手紙のやり取りが出来るように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けを職員や他者と一緒に行うことにより少しでも季節を味わっていただいております。フロアでは洗濯物をたたんでもらったり、簡単な調理をされたり、ソファに座ってゆっくりテレビを見て過ごしたり、役割を持ち、穏やかに過ごせるよう支援しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの他、ソファやカウンターでもくつろげるよう工夫をしており、入居者様によっては馴染みの居場所が出来ております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味や馴染みのもをご持参いただき、安心した生活を過ごしていただけるよう支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失敗体験で自信喪失しないように特に配慮しております。職員間で情報交換し、できることとできない事の見極めをし、支援しております。		